

雌阿寒岳

1 概況

2006年3月21日に小規模な噴火をした雌阿寒岳で、4月26日に北海道の協力を得て、上空からの観測を行いました。また、同日に山麓の雌阿寒温泉付近において赤外熱映像装置による観測を行いました。

赤沼火口の噴煙活動は噴火直後に比べ低下傾向にあるものの、火口底北西部の複数の箇所からは白色の噴煙が強い勢いで噴出しており、依然活発な状態が続いています。

一方、山頂の北西側斜面の噴気孔群では、3月27日に実施した上空からの観測結果と同様に、噴気孔群の上部からは活発な噴気活動が認められました。

その他、ポンマチネシリ 96-1 火口や中マチネシリ火口では、火口の形状や噴煙活動に変化はありませんでした。



北西側上空から撮影した雌阿寒岳



南東側上空から撮影した赤沼火口の様子

2 上空からの観測結果

赤沼火口

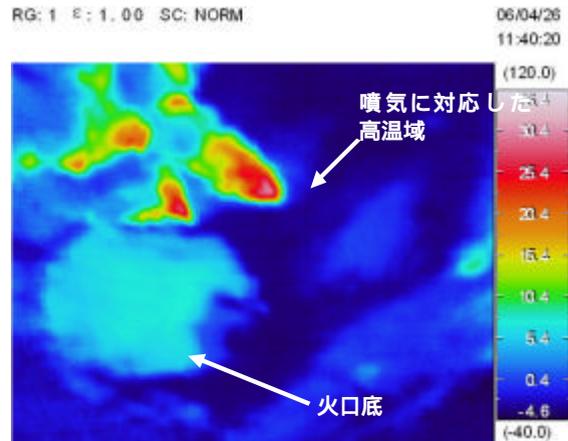
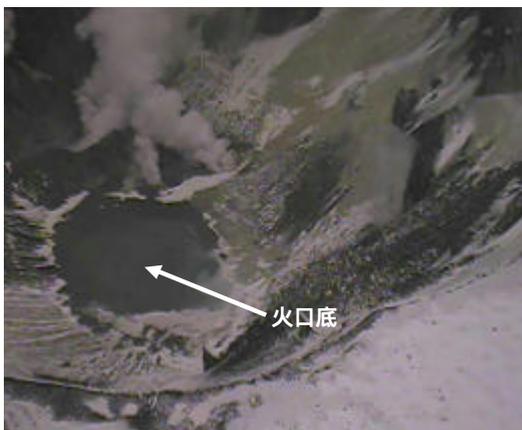
赤沼火口の噴煙活動は噴火直後に比べ低下傾向にあるものの、火口底北西部の複数の箇所から活発な噴煙活動が続いており、中でも北西側に位置する箇所では比較的強い勢いの噴出が認められました。噴煙は白色で火口上 200～300m で北東へ流れていました。これらを含め、火口底には噴出域や地熱域が環状に点在しており、4月11日に北海道大学が行った調査結果と比べ熱活動等の状況には特段の変化は認められませんでした。火口周辺には新たに噴出したとみられる火山灰は認められませんでした。



【赤沼火口の噴火前後の比較】

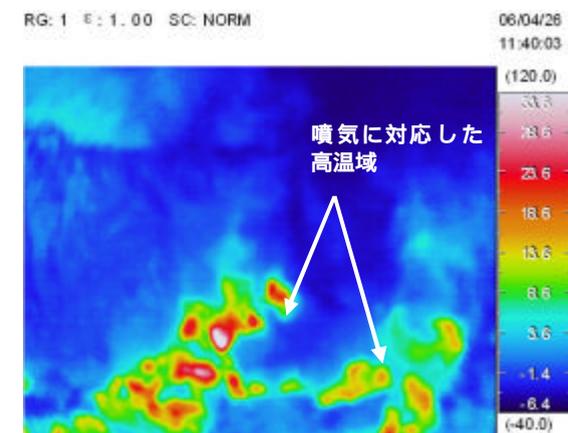
左：平成17年10月26日 右：平成18年4月26日（いずれも南東側上空から撮影）

・赤沼火口は、複数の噴煙箇所が火口底の北西部に集中して認められます。噴火前においてこの部分に熱的な兆候は特に認められていません。



赤外熱映像装置 による赤沼火口内の表面温度分布（4月26日南側上空から撮影）

・噴気箇所に対応した高温域が認められました。



赤外熱映像装置 による赤沼火口内の表面温度分布（4月26日南東側上空から撮影）

・火口底には噴出域や地熱域が環状に点在しており、これらに対応して高温域が認められました。

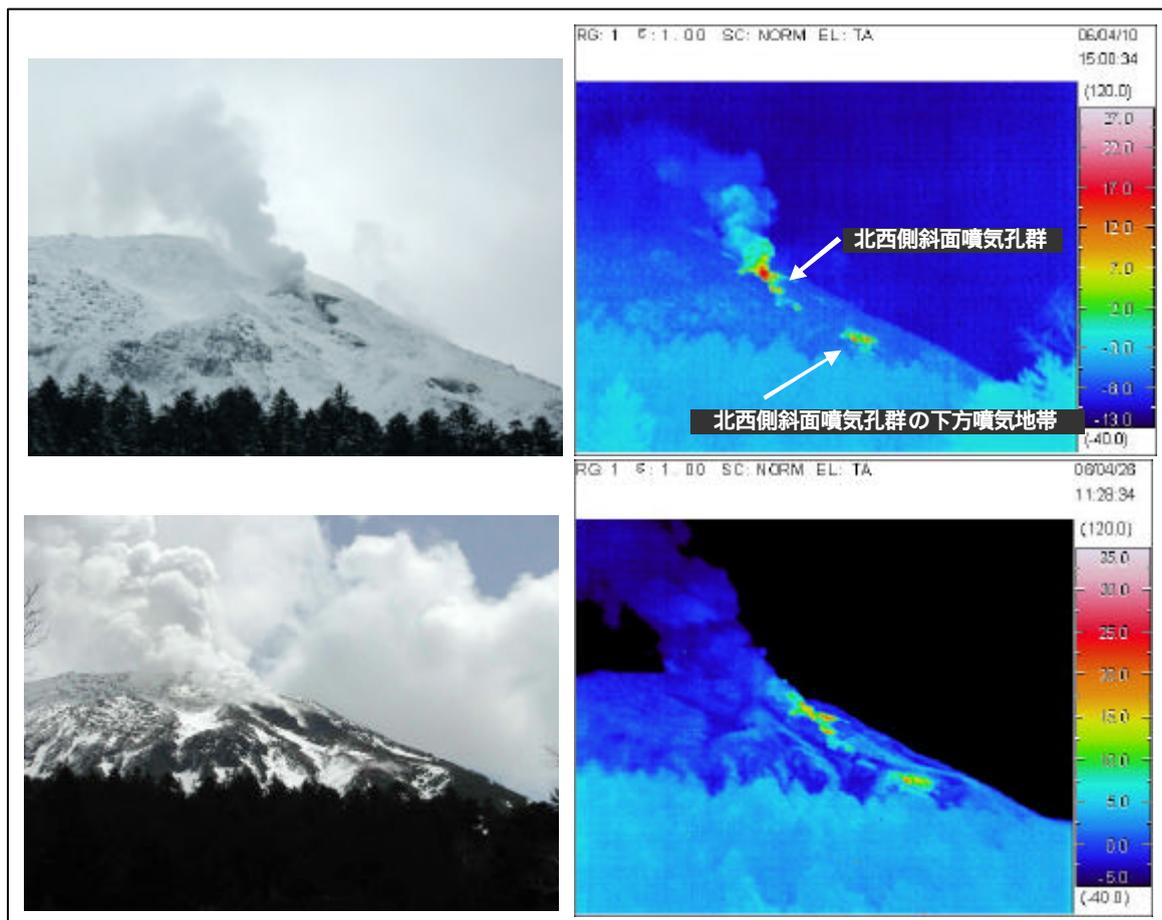
ポンマチネシリ火口の北西側斜面の噴気孔群

北西側斜面の噴気孔群の上部からは依然活発な噴気活動が続いており、白色の噴気が高さ約100mで北東に流れていました。斜面に沿って複数ある噴気孔のうち下部に位置する噴気孔では噴気活動の低下した状態が続いています。北西側斜面の下方150m付近の地熱地帯では、白色の弱い噴気が高さ数十メートル程度上がっていました。

山麓の雌阿寒温泉からの赤外熱映像装置による観測では、噴気孔群の噴気および地熱域に対応した高温域が認められ、その状況に前回（4月10日）と比べ特に変化は認められません。



北西側上空から撮影した山頂北西側噴気孔群（4月26日）



赤外熱映像装置 による山頂北西側斜面の表面温度分布

上段（4月10日撮影） 下段（4月26日：釧路地方气象台撮影）

- ・噴気箇所や地熱域に対応した高温域が見られますが、その状況に変化は認められません。

赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

96-1 火口

96-1 火口の噴煙活動等の状況に特に変化は認められませんでした。白色で少し青みがかった噴煙が高さ 100m 程度で北東へ流れており、風下側では機内でかすかな硫黄臭が感じられました。



西側上空から撮影した96-1火口

中マチネシリ火口

火口内にある複数の噴気孔からは白色で高さ 100m 程度の噴煙が上がっており、噴気活動等の状況に大きな変化はみられませんでした。



南側上空から撮影した中マチネシリ火口